

第 23 回関西大学先端科学技術シンポジウム講演集

原稿作成要領

1. 原稿の標準形式（マイクロソフト社 Word 使用）は、以下の通りです。

(1) 言語

本文、タイトルなどは日本語、概要は日本語または英語でご執筆ください。

本シンポジウムは一般からの参加者が多いことをご考慮いただき、用語、記述が著しく専門的にならないように配慮してください。

(2) 本文の体裁

A4 サイズ、縦長、横書き、モノクロです。余白は、上 25mm、下 30mm、左右 20mm です。2 段組、1 行 21 字程度（英文は 44Word 程度）、行数は 1 頁 45～46 行でお願いします。

(3) 本文中の見出し

本文中の見出しの書体は MS ゴシック 10 ポイントの全角（英文字・数字は Arial 半角）です。各見出しの前は 1 行空けるようにしてください。

(4) 本文

本文の書体は和文で記入する場合は MS 明朝 10 ポイントの全角です（英文字・数字は Times New Roman 半角）。

和文の場合は句読点（、。）を用い、カンマ、ピリオドは使用しないでください。英文の場合は、半角のカンマ、ピリオド（, .）を使用してください。

特殊文字や記号（機種依存文字など）を使用されますと、正しく印刷できない場合がありますのでご注意ください。

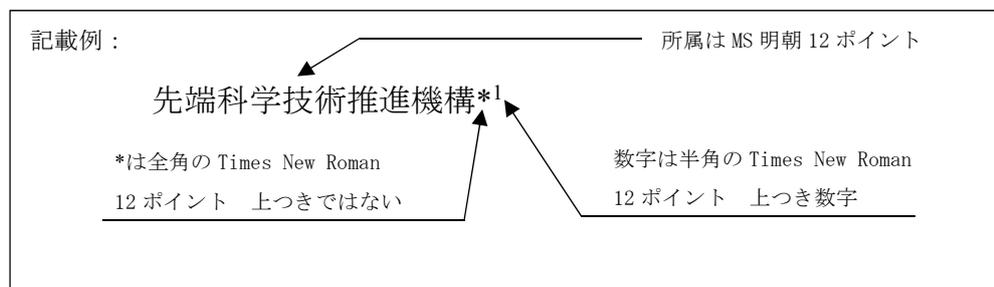
モノクロ印刷となりますので、本文中の色表記は避けてください。

(5) タイトル・発表者（共同研究者）・概要

タイトル、発表者（共同研究者）、所属、概要は 1 段組・中央揃えでお願いします。14 ポイントで 1 行目は空け、2 行目に講演タイトルを MS 明朝 14 ポイントで記載してください。

タイトルから 14 ポイントで 1 行空け、発表者及び共同研究者の氏名を MS 明朝 12 ポイントで記載してください。氏名の次の行に所属を MS 明朝 12 ポイントで記載してください。

発表者および研究者が複数の場合はそれぞれの所属が分かるように、全角の Times New Roman 12 ポイントで「*」、続いて、半角の Times New Roman 12 ポイントで上つき数字を記載してください。



概要は所属から 10.5 ポイントで 2 行空け、5～10 行程度で講演内容を簡潔に記載してください。和文の場合 MS 明朝 10 ポイントの全角で記入してください。概要タイトルは MS 明朝 10.5 ポイントの全角、

太文字で「**概要：**」と記載してください（英文字・数字は Times New Roman 半角「**Abstract：**」）。概要タイトルのダブルコロンの後には半角スペースが入ります（行幅は左インデントが 14.9 mm、右インデントが 12.7 mm です）。

(6) 図・写真

すべてモノクロ印刷となります。図・写真を挿入する場合はモノクロ印刷でも判別できる解像度のものを用いてください。グラフ等を用いる場合は、色相での表現は避け、例のように地模様で表現するようにしてください（対応する本文も同様）。

図・写真と本文の間は 1 行空けて中揃えにしてください。

図・写真のタイトルは、MS 明朝 9 ポイントです。

（英文字・数字は Times New Roman 半角）

図中の文字サイズは 5 ポイント以上にしてください。

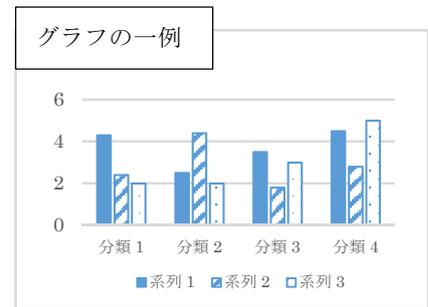


図 1 日本のエネルギー事情

(7) 表について

表と本文の間は上下 1 行空けて中揃えに配置してください。

表題は表の上に罫線なしのセルを作りその中に入れると、表と表題がバラバラになりません。表番号および表題は MS 明朝 9 ポイントです（英文字・数字は Times New Roman 半角）。

表を図として挿入する際は、表中の文字が読みにくくならないサイズとなるようご注意ください。

| 表の一例 | | | |
|--|---------------------------|--|---------------------------|
| Table 1 The target station square | | | |
| A name of the station and an exit name | The form of an open space | A name of the station and an exit name | The form of an open space |
| Chuo-rinkan | Rotary | Saginuma | Rotary |
| Tsukimino | Rotary | Miyazaki-dai | Pedestrian space |
| Minami-Machida | Pedestrian space | Futakotamagawaen (west) | Pedestrian space |
| Suzukake-dai | Pedestrian space | Jiyugaoka (central mouth) | Rotary |
| Tsukushino | Pedestrian space | Yutenji | Rotary |

(8) 本文中の参考文献の表現

本文中の参考文献の表現は右肩上付きで半角 Times New Roman 10 ポイント、数字に片丸かっこで記入してください（例：¹⁾）。

(9) 参考文献

参考文献は半角丸カッコで、半角数字 Times New Roman 10 ポイントでご記入ください。著者名、タイトル、掲載誌、巻(号)、ページの順に半角のカンマ「,」（このカンマの後ろに半角スペースが入ります）で区切って記入し、最後に（ ）付で発行年を記入してください。

英文の文献の著者名は名をイニシャルで表記し、姓を半角のピリオド「.」で区切って記入してください。このピリオドの後に半角スペースが入ります。

著者数が多い場合は「他」、「*et al.*」で表記してください。参考文献の表記例は下記のとおりです。

| 参考文献の記載例 | |
|---|---------------------------------------|
| 参考文献 | 使用用途, エネルギー展望, 4(45), 112-132 (2014). |
| (1) Y. C. Fung, H. Senriyama, S. Sentan, <i>New Energy Control</i> , <i>J. Energy</i> , 50(34), 49-53 (2015). | |
| (2) 関大太郎, 千里花子, 新しいエネルギーとその | |

(10) 式・記号

同一記号を2つ以上の意味で使用することはなるべく避けてください。

(11) 著作権

著作権は全て執筆者に帰属します。

2. 原稿作成上の留意点

(1) 講演タイトルは、事前にプログラム申請されたタイトルをご使用ください。(やむを得ず変更される場合は、以下問い合わせ先まで必ずご連絡ください。)

(2) 原稿の長さは、原稿の標準形式にそって作成されたもので、図・表を含み4ページ以内で作成し、Microsoft社のWordデータにてご提出ください。

(3) 原稿をWord以外のソフトで作成される場合は、作成される前に別途ご相談ください。
※特にPowerPoint、LaTeX等に対応できませんので、ご了承ください。

(4) 原稿が標準形式と異なる場合、体裁の統一のため事務局から執筆者に修正をお願いする、あるいは事務局にて修正させていただく場合がありますので、ご了承ください。

3. 原稿締切

2018年11月9日(金)

※提出は、電子データを下記アドレス宛にメールにてご提出ください。

4. 原稿提出先および問い合わせ先：事務局

先端科学技術推進機構グループ(担当：左子)

Tel : 06-6368-1178 Fax : 06-6368-0080

E-Mail : sentan@ml.kandai.jp

先端 X システムの開発

関大 太郎*¹、千里山 花子*¹、先端 進歩*²*¹ 関西大学 システム理工学部 機械工学科*² 先端株式会社 特別研究員

概要：新エネルギーの開発は、日本の国家戦略上最重要事項の一つである。最近の日本のエネルギー事情は、海外の影響を色濃く受け、燃料供給は依然非常に厳しいものとなっている。また、地震、台風等による自然災害が昨今多発しており、いつ何時エネルギー不足の事態が起こるか予測できない。そこで、本システムは、今までにない画期的な機構を採用し、各種エネルギー供給における問題点を解消できる一助になるものと期待される

1. はじめに

新エネルギーの開発は、日本の国家戦略上最重要事項の一つである。最近の日本のエネルギー事情は、海外の影響を色濃く受け、燃料供給は依然非常に厳しいものとなっている。また、地震、台風等による自然災害が昨今多発しており、いつ何時エネルギー不足の事態が起こるか予測できない。そこで、本システムは、今までにない画期的な機構を採用し、各種エネルギー供給における問題点を解消できる一助になるものと期待される。

2. システム機構

2.1. X 機構システム開発

本研究では、システム開発の手段として、X 機構を採用している。本機構は、従来の Y 機構に比べ、非常に高い安定性を保ち、容易に導入できる点を評価し、採用している。図 1 に示すように、A と B を接続することで、C システムへの直接導入も可能となっている。

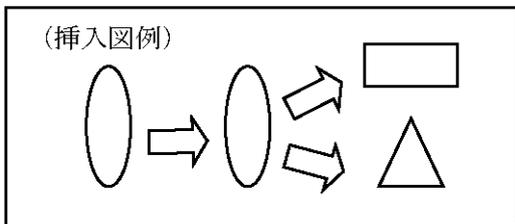


図 1 Y システムの導入手法

導入コストに関しても、非常に安価で既存のシステムを一部使用できるなど、新規導入だけでなく、既存システムに追加することもできるため、様々な方面でも活用が期待できる。明らかになった。

3. まとめ

以上のように、新エネルギー開発における先端 X システムの開発は、コスト面でもシステム安定性においても現システムより優れたシステムとなっており、早期導入可能なシステムとして実用化を進めていく。先端 X システムの導入により、今後の日本のエネルギー供給問題の解消と H システム開発の発展に寄与できるものと期待できる。

謝辞

本研究は、JSPS 科研費 123456 および文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成 XX 年～平成 XX 年)の助成を受けたものである。

参考文献

- (1) Y. C. Fung, H. Senriyama, S. Sentan, New Energy Control, J. Energy, 50(34), 49-53(2015).
- (2) 関大太郎, 千里花子, 新しいエネルギーとその使用用途, エネルギー展望, 4(45), 112-132 (2014).
- (3) 先端科学推進機構事務室, 関西大学先端科学技術シンポジウム講演集, 1, 1-3 (2018).